

第2回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録

日 時：令和6年12月18日（水） 14時00分～16時00分

場 所：朝霞市役所5階大会議室

出席者：堂本座長、朝霞環境市民会議 松永様、朝霞基地跡の自然を守る会 大野様、朝霞湿性植物保護の会 田ノ岡様、黒目川に親しむ会小林様、埼玉県生態系保護協会朝霞支部 富永様、わくわく新河岸川みどりの会 山本様、秋ヶ瀬野鳥クラブ 田中様

傍聴者：3名

【資料「グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価(経過報告)について」】

- ・土地が駐車場になった時の効果の話があったが、駐車場の舗装の有無（アスファルトか裸地かなど）や建物の種類（コンクリートか木造か等）により違う結果が出るのか。（委員）
→ランドサット画像は解像度が30mであるため、素材や構造との関係を把握することは難しい。サーモカメラによる熱画像と素材の関係に関しては既往研究にあるが本業務では実施できない。（事務局）
- ・炭素固定について、樹木が出す二酸化炭素と固定する二酸化炭素の差はどのくらいか。（委員）
→樹木は若いうちは炭素の吸収が活発で老木になると吸収スピードは落ち、最終的には均衡状態になると考えられている。国でも炭素吸収源の報告があるが、都市公園は30年まで、大規模公園では50年を上限と定めている。本日の資料では、二酸化炭素量の排出については計算していない。（事務局）
- ・代官水は、「だいかんみず」と読む。（委員）
→承知した。（事務局）
- ・これまでのみどりの基本計画は、あまり読まれていない。朝霞らしいみどりの基本計画を策定する時に、水涵養や生き物の話を全面に出して、誰でも理解できるようなものになると楽しいと思う。本屋で、皆に買われるようなみどりの基本計画であるとよいと思う。（委員）
→子どもが読んで興味を持ち、みどりを学ぶきっかけとなると良いのではと考えている。まずは分析により、朝霞のみどりの実態を明らかにすることを進めている。（事務局）
- ・生物多様性評価において植物のデータの割合が少ない印象であった。増やしてはどうか。（委員）
→今回の分析では、動物を中心に指標を設定している。植物に関してはレッドデータや注目種（ラン類）を取り入れた。ある環境の説明性の高い種があれば注目種入れてもよいと考えている。皆様のご意見を合わせて完成形にしたいため、入れた方がよい種があれば、ご意見いただきたい。（事務局）
- ・緑地による二酸化炭素削減の効果がどのくらいあるのか、水涵養の量であればプール何個分など市民にわかりやすい説明をしていただきたい。（委員）
→今後市民への説明の仕方は事務局で検討され则认为。（座長）
- ・お金に換算すると問題になるが、意識することは大事だと思う。（委員）
- ・本日、4つの切り口の分析の説明があった。更に他の評価も重ね合わせた時にどういう判断をするかという話になるが、個別の分析において客観的なデータがあることは良い。（座長）
- ・資料3のG Iタイプの多様度をどう活用するのか。みどりの基本計画を策定する時に単に多様度だけではなく、外来種など具体的な種についての評価も大事だと思う。（傍聴者）
- ・補足資料3「G Iタイプにおける指標の多様度」は、生物生息情報のある緑地だけでなく、他の緑地や農地、一般市街地を含めて評価するために作成したものである。この表により市全体の評価ができる。しかし、細かい範囲の分析はある種がどこに生息しているかなど分析をする時には、この表は使えないと考える。（事務局）
- ・流動経路について根拠を教えてください。（委員）
→表土層直下に50m間隔で点を打っている。流動経路のモデルは、その点がどのように動いているのかを算出している。地下水の流れるルールに基づいて算出している。（事務局）
- ・1998年に朝霞駅から東円寺までの2km、朝霞駅から東に1km区間に50か所の井戸を確認して、地下水の流れる方向を導きだした。その時の結果と比べると、流動経路が合わない。もし実測でなく、予測のデータであれば、明記していただきたい。（委員）
→実測ではなく予測によるモデルということを明記する。（事務局）

- ・市から地下水に関するデータをいただいているが、今のお話は初めて聞いたので、ぜひそのデータをいただきたい。実際に井戸の深さ等も可能な限り集めている。（事務局）
→データをお渡しする。（委員）
- ・2005年に地表の温度の調査も実施している。その時のデータと今回のヒートアイランド現象の緩和パフォーマンスの値とリンクしているのか。（委員）
→モデリングなので現状と同じにはならない。市全域を漏れなく分析する場合、現場で実測値を取ることは難しく、リモートセンシングデータを利用した。過去に調べたデータがあれば、ぜひ参考にしたいため共有いただきたい。（事務局）
→データをお渡しする。（委員）
- ・内間木の地表の温度が低いと出ているが、昔と比べて内間木が変容している。畑が資材置き場になっている。昔は竹林が有名であり、遠くの学校から遊びに来ていたが、今は行っていない。湿性植物の会で活動している保護地の周りは林で覆われていたが、今はすかすかになっている。状況が昔と比べて、大きく変容しているということをお知らせしたい。（委員）
- ・みどりの基本計画を改定する際、朝霞特有の湧水などを全面に出してほしい。希少植物や動物が減っている。朝霞の森や国有地、朝霞水門、朝霞調節地の周りなど、特別な場所として載せて欲しい。ボランティア活動についても載せてほしい。ボランティア人材は、高齢化し、帰路に立っている。ボランティアへの募集についてもみどりの基本計画の中に明記し、ボランティア活動への後押しを市にお願いしたい。（委員）
→活動を市がもっと発信していくことが大事だと思っている。アンケートでも活動を知らない人が多い結果であったため、何か対応したい。（事務局）
- ・水資源という言葉は使わないでほしい。水循環法という法律には水資源という言葉が入っていない。石油は資源。水は循環するものであり資源でない。水の環境を大切にしたい、という方が明るい世界になる。水資源を確保するというと暗い世界になる。（委員）
→承知した。（事務局）
- ・ヒートアイランドという言葉とクールアイランドの言葉では印象が異なる。クールアイランドという言葉の基本とすることを検討していただきたい。（委員）
- ・炭素固定は、朝霞の森の樹木の数調べ、伐採した際の影響を算出することも検討してほしい。温度のモデリングは、みどりからの恩恵が見えるような形にしてほしい。（委員）
- ・水がどこからきているのかという質問は多い。朝霞市は湧水が多いので説明があるとよい。（委員）

【その他について】

- ・ボランティア活動への参加動機を聞きたい（座長）
→興味を持った理由は、町内会のイベントで黒目川へ行き、魚や生物に触れたことである。また朝霞市の良いところは、小学校で黒目川や朝霞の森などに行き、自然に触れることができたことである。子どもの時に黒目川で遊んでいた人がボランティアに来ている。（傍聴者）
- ・若い方の参加において、大切なことはあるか。（座長）
→活動の中で役割を与えるとよいと考える。若者が役割を担って活動をすることで愛着が沸いてくると思う。（傍聴者）
→活動の中で楽しい場を用意してくれると若い人も集まると思う。少しずつ下の世代に繋がっていくと、幅広い世代の人達が活動できると思う。（傍聴者）
- ・埼玉県のイベントで、川の再生交流会を実施している。この講演会で生物多様性のことを語ってもらうことになっている。（委員）
- ・東久留米の11か所の樹林について、東京都が樹林の管理方針（A4サイズ1枚）を作成している。目標は現状保全という言葉のみであるが、管理基準を定めており、さらに、外来種の管理やボランティアの育成、そのための予算確保について記述されている。朝霞市にはないので作成をお願いしたい。
- ・今日お配りしたちらし「シンボルロードの緑地管理を考える（1/26開催）」は、以前よりシンボルロードを考える会により実施しているが、今回は、みどりの基本計画のワークショップの第1回目を兼ねている。皆さんにもぜひ参加していただきたい。（委員）
- ・今年度中、2月ごろに第3回生物多様性市民懇談会を予定している。（事務局）